

令和7年度 美里地域会議（5月分科会） 会議録

日 時：令和7年5月20日（火）19時～20時30分

場 所：美里交流館 第1会議室

出席者：＜地域会議委員＞北村 猛志、小林 健一、鈴木 智映子、野村 耕一、
松村 洋、吉本 勝、佐藤 弘
＜高橋支所＞ 前田支所長、出口副支所長、河野主査

≪内容≫

1 会長挨拶

2 支所長挨拶

3 高齢者実態調査の仕様書検討

- ・5月8日（木）の地域会議で出た意見を基に、事務局が仕様書のたたき台を作成し、仕様書の作成に必要な内容を決める話し合いを行った。

【調査スケジュール】

- ・7月までに契約を締結し、アンケートの詳細決定、アンケート調査実施、アンケート調査結果分析、ヒヤリング詳細決定、ヒヤリング調査実施、ヒヤリング調査結果分析、調査全体の分析、次回提言内容の検討、の順に進めていく予定であることを説明した。
- ・調査を効率よく進めるために、アンケート調査の実施期間中に、並行してヒヤリング調査先の検討と日程調整を進める。
- ・アンケート調査を行う前に、住民に対してチラシ配布などの事前告知を行うべき。地域会議がどのようなことをやっているかのアピールにもなる。自治区の回覧板、市民団体への個別配布など告知の方法は今後検討していく。
- ・スケジュールに関して、地域会議委員、事務局、委託業者がそれぞれの段階で何をするのが一目でわかるような資料が欲しいという意見が出た。事務局が資料を作成し、次回の地域会議で提供すると説明した。

【アンケート調査】

（1）対象者

- ・65歳以上の人を無作為で抽出する。
抽出は市が保有する住民データを用いる。年齢の上限は設けない。
- ・前回の地域会議では45歳～64歳の人にも調査対象に入れる意見があったが、そうする目的は「将来の不安が何か」の意見を得る目的が大きかった。
- ・ただ、65歳以上の人でも、現時点では得に困っていることがない元気な人が多くいるため、対象者を65歳以上にしても、将来の不安についての意見は十分得られると判断した。

（2）調査件数

- ・美里地区（中学校区）の65歳以上人口は約5,500人。
統計学の観点から、母数が5,500人の場合、信頼できる最低限の回答数は約350件。アンケートの回収率を30%と設定し、約350件の回答を得るため、アンケートの配布数を約1,200件とする。
- ・中学校区ではなく、小学校区ごとに信頼できる回答数を得る計算も行ったが、その場合はアンケートの配布数が約3,200件となり、実施負担がかなり大きい

ものとなるため、今回は中学校区全体で有効な回答を得るための配布数を採用する。

- ・ 1, 200 件の配布数に対し、小学校区ごとの人口で偏りをなくすように抽出する案があったが、もともと美里地区の小学校区（野見、東山、広川台）の65歳以上人口にそこまで差が無いことから、中学校区全体で無作為抽出を行う。
- ・ 性別や年齢層ごとにある程度範囲を分けて抽出するかは、技術的に可能かも踏まえて今後検討する。世帯ごとに抽出する案も出たが、65歳以上かつ世帯単位での抽出は技術的に難しい。

（３）調査方法

- ・ 郵送対応。
- ・ 対象者を無作為抽出することから、自治区に依頼しての手渡しは難しい。
- ・ 郵送物を委託業者が作成する場合も、封筒は市の封筒を使用すべき。市の封筒のほうが中身を見る可能性が高く、回収率も高くなると思われる。
- ・ アンケートを郵便で送る前にチラシ配布などで事前告知を行うべき。急に知らないアンケートが届いても対応してもらえない可能性がある。告知方法は自治区の回覧板、市民団体への個別配布など要検討。
- ・ 回答をしてくれた人に抽選で記念品を贈る案が出たが、無記名回答のため難しい。対象者の無作為抽出時に連番を設定し、回答後に個人を特定することは可能だが、匿名で回答したものに対して個人を特定するのは望ましくないと考える。

（４）設問数

- ・ 選択式を20問程度、記述式を数問とする。
- ・ 一般的に、アンケートをしっかりと考えて回答してもらえるのは多くて20問程度と言われている。
- ・ まだ質問内容が全く固まってない状況で、今後20問も設問を作成するかはわからないが、一旦仕様書に盛り込んでおいて、実際に減る分には問題ない。
- ・ 記述式については、アンケートはあくまで全体的な統計をとる目的であり、深堀はヒヤリングで行えるため、記述式の設問は少なくてもよいと考える。

（５）設問内容

- ・ 委託業者に調査の専門的な目線での助言をもらいながら、今後の地域会議で決めていく。
- ・ 「要介護認定を受けていないものの、生活に困りごとのある高齢者」に対する支援を考えていくことから、「要介護認定の有無」や「ある程度グループ分けした年齢層」の設問は必須になると考えられる。

【ヒヤリング調査】

（１）対象者

- ・ 高齢者クラブやサロンなどの市民団体。

（２）調査件数

- ・ 5回＋大き目の会1回を想定。
- ・ 各団体へのヒヤリングに加え、「〇〇を考える会」などの大きい会を開催したい。
- ・ ヒヤリングについて、活動団体の地区を小学校区ごとにある程度分散させ、地域全体の意見を得るべき。
- ・ ヒヤリングを行う前に、ヒヤリングについての勉強会を行ってほしい。

- ・大きな目の会については、各団体、市の高齢福祉課、消防団、民生委員など、いろいろな分野の人を呼びたい。
- ・会の中で、出席者をグループ分けしてグループワークを行えば、団体間での交流のきっかけにもなる。
- ・地域会議としてこういった活動をしているというアピールにもなる。

(3) 調査方法

- ・ヒヤリングについて、団体のジャンルごとに複数の団体に集まってもらう集合形式を想定している。
- ・高齢者クラブ〇団体、サロン関係で〇団体、など。
- ・代表者は男性の場合が多いので、各団体で複数人に出席してもらう場合は、男女での参加をお願いする、事前にヒヤリング内容を伝えて、出席しない人の意見を聞いたうえで代表者に出席してもらうなど工夫が必要と考える。
- ・ヒヤリングの司会進行、記録などは委託業者にお願いしたい。
脱線しすぎないようにリードしていく存在が必要。

(4) 調査時間

- ・1回あたり1時間程度を想定。
- ・1時間を超えると参加者側の負担が大きく、参加者が減る可能性がある。
- ・1時間を想定して、話が弾んだ結果予定時間を超えるのは問題ない。

(5) 調査内容

- ・アンケート調査の分析結果を加味して、委託業者の専門的な目線での助言をもらいながら、地域会議で決めていく。
- ・基本的にはアンケートで得た内容の深堀を行う想定。

4 委託業者への委託内容

- ・事務局から、仕様書に記載する委託業者への委託内容を説明した。
 - ① 調査票の設問設定に関する助言
→委託業者の参加資格に「福祉関連の知識があること」と入れることで、調査と福祉の両方の専門的な目線からの助言を得ることができる。
 - ② 調査票の作成、印刷、送付
→アンケート本番の前の告知チラシの作成も委託内容に含める。
発送業務を市と業者のどちらが行うかは、委託費の金額や、市が郵便代の予算を確保できるかによって決める。
 - ③ ウェブ回答フォームの作成
 - ④ 調査票の回収
 - ⑤ アンケート調査の結果分析
 - ⑥ アンケート調査報告書作成
 - ⑦ ヒヤリング調査の内容に関する助言
 - ⑧ ヒヤリング調査同行、実施記録作成
 - ⑨ 「〇〇を考える会（仮称）」のファシリテーター役
→何をどこまで関わってもらうかは要検討。
 - ⑩ ヒヤリング調査の結果分析
 - ⑪ ヒヤリング調査報告書作成
 - ⑫ 調査全体の分析資料（最終報告書）作成
→地域会議で最終分析結果の説明会を行ってもらう。

5 今後の予定

- ・今回の会議で出た意見を基に仕様書を作成する。
仕様書が作成でき次第、郵送またはメールで7名の委員に仕様書を送付する。
- ・仕様書の内容に問題がなければ、事務局が業者に参考見積を依頼する。
- ・7名以外の委員には、6月の地域会議で仕様書を提示する。